

令和5年度 6月講和（6月6日）

みなさん、おはようございます。5年生は宿泊学習、そして、6年生は陸上運動記録会など、それぞれの学年で、精一杯自分の力を出し切って取り組みを進めている姿が見られます。6月に入り、ますます充実した学習ができそうですね。

さて、今日は、みなさんと「たのしい」ということについて、考えてみたいと思います。先ほど、お話した陸上運動記録会では、校長先生が天童市内の6年生のみなさんに「運動のたのしさ」について話したこと、蔵増小の6年生は知っていますね。その時に4つある楽しさの内、陸上運動には2つの楽しさがあると話しました。

まず1つ目が、自分が目指す記録を達成する「達成するたのしさ」、そして、2つ目が仲間と一緒に競い合う「競争するたのしさ」でした。この2つの「たのしさ」を実感することで、体育の学びがより一層充実していくものになると伝えました。

では、残りの2つは何でしょうか？それは、鉄棒や跳び箱など、できる・できないがはっきりしていて、難しいことを克服していく「克服するたのしさ」と、表現運動やダンスなどで見た動きなどを真似する「模倣するたのしさ」の2つです。

このように、楽しさと言ってもそれぞれの内容に応じた「たのしさ」があることが理解できますね。

次に、「たのしい」の漢字についてはどうでしょうか？だいたい、みなさんが使う漢字の楽しさは「楽」ですね。でも、これ以外にも楽しいという漢字があるのです。一つは「愉」。もう一つは「娛」です。この2つは、本当は使わない方がいいとも言われているのですが、あえて比べるために紹介します。「楽」の方の楽しさは、「明るく満ち足りた気持ち」という意味があり、「愉」は「愉快」などの「楽しくて心地よい」という意味があります。また、「娛」は、「娯楽」などの「心を楽しませたり、慰めたりしてくれるもの」という意味があります。

このように、「たのしい」という言葉にさまざまな意味や漢字があるのですが、みなさんは「たのしい」という気持ちをどう使っていますか？では、「たのしい」の上に言葉をつけてみましょう。「自分だけ」「みんなが」をつけてみました。どうですか？どちらがいいでしょうか？もちろん、みなさんは「みんなが」楽しい方を選ぶでしょう。しかし、実際に学校で生活していくと、いつも「みんなが」楽しいばかりではないようです。時々、「自分だけ」が楽しいになっていませんか？周りをよく見て、友達顔をじっくり見て、自分だけが楽しい状態にならないようにしていかななくてはなりません。

来週は、全部の学年が参加する「いなほっこ遠足」が行われます。その時、「みんなが」楽しいとなるために、6年生がいろいろなことを考えて取り組みを進めてくれています。5年生から1年生までのみなさんも、6年生だけに任せるのではなくて、自分から進んで、みんなが楽しい「いなほっこ遠足」になるようにしていきたいですね。6月14日が楽しみです。

今日は、「楽しい」についてお話をしました。これで、校長先生の話が終わります。